

新任副院長挨拶



副院長兼消化器センター長 兼
第1消化器内科部長
やまごき ゆきなお
山崎 幸直

令和5年4月1日付で副院長を拝命いたしました。主に診療・医療安全・感染領域を担当いたします。病院理念である「人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。」に基づき、安心かつ安全で質の高い医療の提供と医療関連感染のコントロールに注力いたします。福井県において最も歴史ある基幹病院である福井赤十字病院の更なる発展に貢献出来ますように、微力ではありますが尽力する所存ですので、連携医の先生方におかれましては忌憚のないご意見とご指導のほど、何卒、宜しくお願い申し上げます。



副院長兼脳神経センター長 兼
第1脳神経外科部長
にしむら まさき
西村 真樹

令和5年4月1日付で副院長を拝命いたしました。診療情報・保険診療・医療機器にかかわる業務を行います。高齢化社会を迎え、医療を取り巻く状況はこれからさらに大きく変わっていくと思えます。今後もこれまで以上に先生方との連携を強化し、地域の皆様が安心して暮らせるような医療を提供すべく頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。



副院長兼看護部長
まなべ てるみ
真鍋 照美

令和5年4月1日付で副院長兼看護部長を拝命いたしました。地域医療支援病院として、地域に密着した急性期医療を行うことを使命とし、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めております。「心の通う連携」を推進し、これからも尚一層の努力をする所存でございます。今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

新任院長補佐紹介



院長補佐(医療情報管理) 兼
第1循環器内科部長
よしだ ひろゆき
吉田 博之



院長補佐(がん診療) 兼
がん診療センター長 兼 第1外科部長
あおなけ としはる
青竹 利治

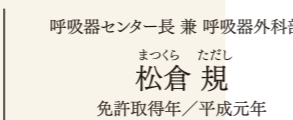


院長補佐(地域医療連携) 兼
地域周産期母子医療センター 兼
第1産婦人科部長
たじま きみひさ
田嶋 公久

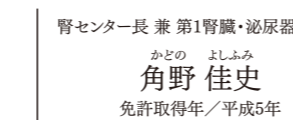


院長補佐(感染管理) 兼
小児科部長
わたなべ やすひろ
渡邊 康宏

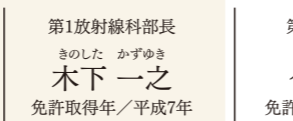
新任センター長・部長紹介



呼吸器センター長 兼 呼吸器外科部長
まつくら ただし
松倉 規
免許取得年/平成元年



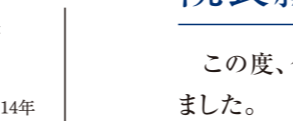
腎センター長 兼 第1腎臓・泌尿器科部長
かどの よしふみ
角野 佳史
免許取得年/平成5年



第1放射線科部長
きのした かずゆき
木下 一之
免許取得年/平成7年

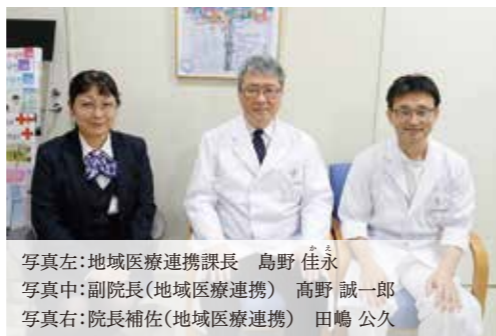


第2神経内科部長
いむら ひさじ
今村 久司
免許取得年/平成14年



形成外科部長
おかもと ひとし
岡本 仁
免許取得年/平成14年

地域連携担当スタッフ紹介



写真左:地域医療連携課長 鳥野 佳永
写真中:副院長(地域医療連携) 高野 誠一郎
写真右:院長補佐(地域医療連携) 田嶋 公久

連携機関の皆様から信頼される良きパートナーとなるよう、スタッフ全員で精一杯の努力をしております。よろしく申し上げます。

Partner

福井赤十字病院連携通信〈パートナー〉

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.080

令和5年4月発行



院長就任のご挨拶 福井赤十字病院・院長 小松 和人

この度、令和5年(2023年)4月1日付で8代目の院長を拝命しました。

福井赤十字病院は令和5年(2023年)現在、許可病床534床、標榜診療科25科、職員数は1,100名を超える陣容にまで至りました。令和7年(2025年)には創立100周年を迎えることとなります。

平素、連携機関の皆様には大変お世話になっております。本稿では当院の連携に対する姿勢を明らかにいたします。当院の使命は急性期医療の分野において最先端の高度な診療を担うことです。連携機関からの紹介例、ロボット支援手術に代表される高度な外科治療症例、24時間/365日体制で対応可能な新鮮脳梗塞に対する血管内治療などの救急疾患、難治性疾患、診

断が困難な疾患、緻密な緩和ケアが必要な症例などが診療の中心になります。したがって、比較的状态の落ち着いた慢性的な症例については積極的に地域の医療機関に逆紹介をいたします。よろしくお願いたします。

令和元年(2019年)に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行は当院の経営にも大きな影響を与えていますが、私たちは第2種感染症指定医療機関として感染症対応と急性期一般診療の両立を目指します。

今後も地域の連携機関から信頼される病院を目指して、微力ではありますが精進してまいります。一層のご支援をお願いいたします。

退任のご挨拶



名誉院長
高木 治樹

この度、定年に伴い院長を退任いたしましたので、連携の先生方にご挨拶申し上げます。院長在任中は、格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

平成2年に当院に整形外科部長として着任してから、早いもので33年が経過しました。院長職は、平成30年から5年間の任期でしたが、新型コロナウイルス感染症の荒波を乗り越え、その間病院運営をなんとか安定して維持できたことは、先生方のご支援の賜物であり、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後も当院は、高度専門医療、良質なチーム医療、地域完結型医療を土台とし、病院理念の達成に向け、連携医療機関の皆様のご期待に添えるような病院を目指し、職員一同更に邁進してまいります。連携の先生方より一層のご理解とご支援を今後も賜りますようお願い申し上げます。退任のご挨拶といたします。

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間/平日 8:00~18:30、土曜 8:30~12:30
TEL 0776・36・4110(直通)
FAX 0776・36・0240(専用)

福井赤十字病院

<https://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第80号発行 令和5年4月 福井赤十字病院



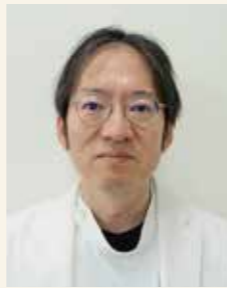
形成外科とは

福井赤十字病院 形成外科部

形成外科部長(令和5年3月赴任)

岡本 仁

日本専門医機構認定形成外科専門医
日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医



形成外科とはどのような科でしょうか?美容形成外科のテレビCMを思い出すなど、一般病院での形成外科のイメージが掴みづらくもありません。

若い頃、私の師匠に「形成外科とは何なんですか?メジャーな外科と比べると引け目を感じるのですが。」と質問したことがあります。師匠は「直接、命を救っている感覚が薄いのかもしれないけどね、見た目の変形、醜形が原因で外出できない人もいるんだよ。病気で家で寝込んでいる人と、外見が気になって家に引きこもっている人、社会的に見たら同じことなんだ。僕たちは変形を治すことで社会的な命を救っているんだ!」と言われ、なるほど!と思い胸を張って形成外科をできるようになりました。

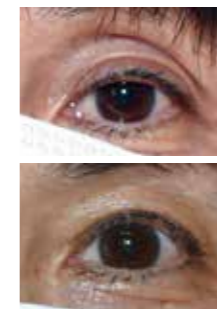
具体的に当院の形成外科はどのような疾患を治療しているか代表的なものを表にしました。疾患と術式が混在していますが、形成外科の特殊性ゆえご容赦ください。

分類	部位	疾患、手術
先天異常	眼瞼	先天性眼瞼下垂、睫毛内反、瞼裂狭小症など
	耳介	外耳変形、埋没耳、副耳、耳瘻孔、小耳症など
	口腔	口唇裂、口蓋裂、顎裂、鼻咽腔閉鎖不全、舌小体短縮症など
	手足	合指症、多指症など
加齢・変性疾患	眼瞼	眼瞼下垂、眼瞼痙攣、眼瞼内反など
	爪	巻き爪、陥入爪
	顔面神経麻痺	静的再建、動的再建
腫瘍		皮膚、皮下、軟部組織にある様々な良性腫瘍、悪性腫瘍、太田母斑、異所性蒙古斑
外傷	熱傷	全身熱傷、局所熱傷、低温熱傷、凍傷、化学熱傷
	顔面骨骨折	頬骨骨折、眼窩底骨折、上顎骨骨折、鼻骨骨折など
	顔面損傷	涙小管断裂、顔面神経断裂など
難治性潰瘍		足潰瘍、褥瘡
再建手術	乳癌全摘後再建	腹部皮弁(DIEP)、広背筋皮弁、インプラント、脂肪注入、乳頭形成、タトゥ
	その他の再建	各種遊離皮弁、穿通枝皮弁にて様々な皮膚、軟部組織欠損の再建

個人情報保護の観点から、掲載写真は承諾を得た患者さんののみになりますがご覧ください。
もしお困りの患者さんがおられましたら、ご紹介いただければ幸いです。



目
重度の睫毛内反症に対し、内眼角に内田法、上眼瞼にHotz法、2回目の手術で再度、内眼角に内田法、下眼瞼にHotz法をして改善しています。内眼角の瘢痕は目立ちません。



目
加齢による腱膜性眼瞼下垂で眼窩脂肪が引き込まれ眉下に陥凹を認めます。挙筋前転することで開瞼、陥凹ともに改善しています。



目
眼瞼下垂+眼瞼痙攣でほぼ開瞼できず、眉下皮膚切除後、2回目の手術で挙筋前転+ミューラー筋剥離をして改善しました。



目
重度の瞼裂狭小症に対し、2回の内眼角形成+筋膜移植をしています。やや兎眼を認めますが、開瞼はかなり改善しています。



耳
耳介変形に対して生後2週からテープ、創傷被覆材で矯正しました。生後3か月までは改善の見込みがありますが、早ければ早いほど矯正は容易です。



鼻
基底細胞癌2カ所を切除し、全層植皮よりさらに厚い含皮下血管網植皮をし生着しました。ほぼ平坦で瘢痕も目立たず仕上がりは良好です。



鼻
基底細胞癌を切除して植皮しましたが、この鼻孔縁付近に植皮すると拘縮で鼻孔縁のラインが変形しやすいことが知られています。ここでは鼻孔縁に沿って耳介軟骨を入れつつ含皮下血管網植皮をすることで鼻孔縁の形態を保持したまま植皮を生着させています。



異所性蒙古斑
全身に散在する異所性蒙古斑に生後数週からレーザー治療開始しました。1カ月毎に繰り返しましたが、最初に照射した側胸部が著効しています。異所性蒙古斑の患者さんはできるだけ早期にご紹介ください。



指
熱傷受傷し植皮をしましたが拘縮、肥厚性瘢痕を生じ、2回にわたり連続Z形成、指間に5flapをし丹念に拘縮を解除しました。指輪をつけておしゃれを楽しむまでに改善しています。



口
低悪性度のMucoepidermoid carcinomaを耳鼻科で切除され、頭を悩ませつつ両側からVY皮弁を移動させて再建しました。形態、開口ともに良好で患者さんに喜ばれました。

※掲載写真については、患者さんの承諾を得ております。